

# 21春闘 コロナ対策を拡充し いのち・暮らし 雇用・営業を守ろう



第88回中央委員会（2月14日）で21春闘方針を確立しました



住民のいのち、自治体労働者の安全確保を訴える有田委員長

府内の自治体交渉では、コロナ対応に追われる中で、職員体制や健康・安全管理などが緊急の課題となっています。

また、1年を経過した会計年度任用職員制度は、数々の矛盾と問題があり、制度の抜本的改善が求められています。

コロナ禍だからこそ自治体労働者の不安を解消し、仕事に専念できる職場が必要です。



大阪衛都連が府市町村課と交渉

## PCR検査拡充 ワクチン接種を急ぐべき

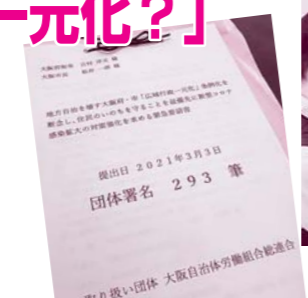
府市町村課と交渉 3月2日

エッセンシャルワーカーである自治体労働者にPCR検査を徹底し、ワクチン接種を急ぐことを求めました。

## 「こんなときに広域行政一元化？」

副首都推進局に要請 3月3日

大阪自治労連と大阪衛都連は副首都推進局に「広域行政一元化条例より、コロナ対策に全力をあげるよう」と要請しました。



府内・全国各地より届いた293団体の署名を提出



交野市職労 書記長  
魚住 香陽子さん  
(環境衛生課)

交野市で初めて、女性の化学技術職として採用され、現在、書記長として活躍されている魚住さんにお話を聞きました。趣味は映画鑑賞。それに中国楽器の「二胡」を習っています。ぜひ、聴きたいですね。

# 人と人とのつながりを 大事にしたい——これからも

現在は環境衛生課で温暖化対策の仕事をしています。たとえば、庁内で使われている電気・ガスとかからCO<sub>2</sub>排出量を計算したり、市民や職員に環境に配慮した取り組みを行ってもらえるよう、啓発をしています。

**生まれ育ったまち  
恩返しをしたい**

大学生の時に、化学の先生に「うちの研究室に來なさい」と言われて化学を専攻しました。求職活動中に、交野市の広報で職員募集を見ました。公務員はハードルが高いので無理かな…と迷っていましたが、化学職の募集があるのを知って、「どんな仕事をするのかな?」って市役所に聞きに行きました。

面接では「生まれ育ったまちだから、恩返しをしたい」気持ちを話しました。

環境衛生課の仕事は公害・環境調査・浄化槽・動物など幅広く、苦情対応の仕事もあります。



取材中にたずねてきた組合員にも丁寧に対応されていました

**情報を共有し、相談できる  
そんな組織が職場に必要です**

採用されて間もなく、職場の先輩に誘われて組合事務所まで話を聞きました。以前、民間会社で働いていた時に賃金未払いなどの問題が起きたりしました。ですから、職場にいろんな情報とか相談できる組織が必要だと思っていました。組合に入らないという選択肢はありませんでした。

**職場の意見を伝える場がある  
市全体のことを知る場がある**

職場の組合役員の方から執行委員をお願いされました。何をするかよく分かっていますでしたが、

**市民にやさしい市役所  
風通しのいい職場に組合は大切**

交野市役所は、市民の方から「とても丁寧に対応してくれる」との声を聞きます。職員が丁寧でやさしいんです。風通しのいい職場であるために組合は大切です。

人と人とのつながりを大事にできました。私は元々人見知りなのですが、組合活動のつながりもあって、仕事上でも声もかけやすいです。これからも、つながりを大事にしていきたいと思っています。

その先輩が真剣に頼んでくれたので、私に執行委員になってほしいんだと感じ…できることであればやろうと思いましたが(笑)。

書記長を頼まれた時は、上司に相談しました。そしたら「自分の経験にもなるし、やってみたら」と言われました。職場の理解もあり、周りに助けられて恵まれていました。この経験ですごく視野が広がりました。

書記長になるときは、最初は断りました。今まで書記長の仕事をみてきたし、私にはできないと思っていました。

でも、がんばっておられる役員のみなさんや、この先のことを考えました。「みんな、私についてきてくれるのかな」と、不安でしたが引き受けることを決めました。